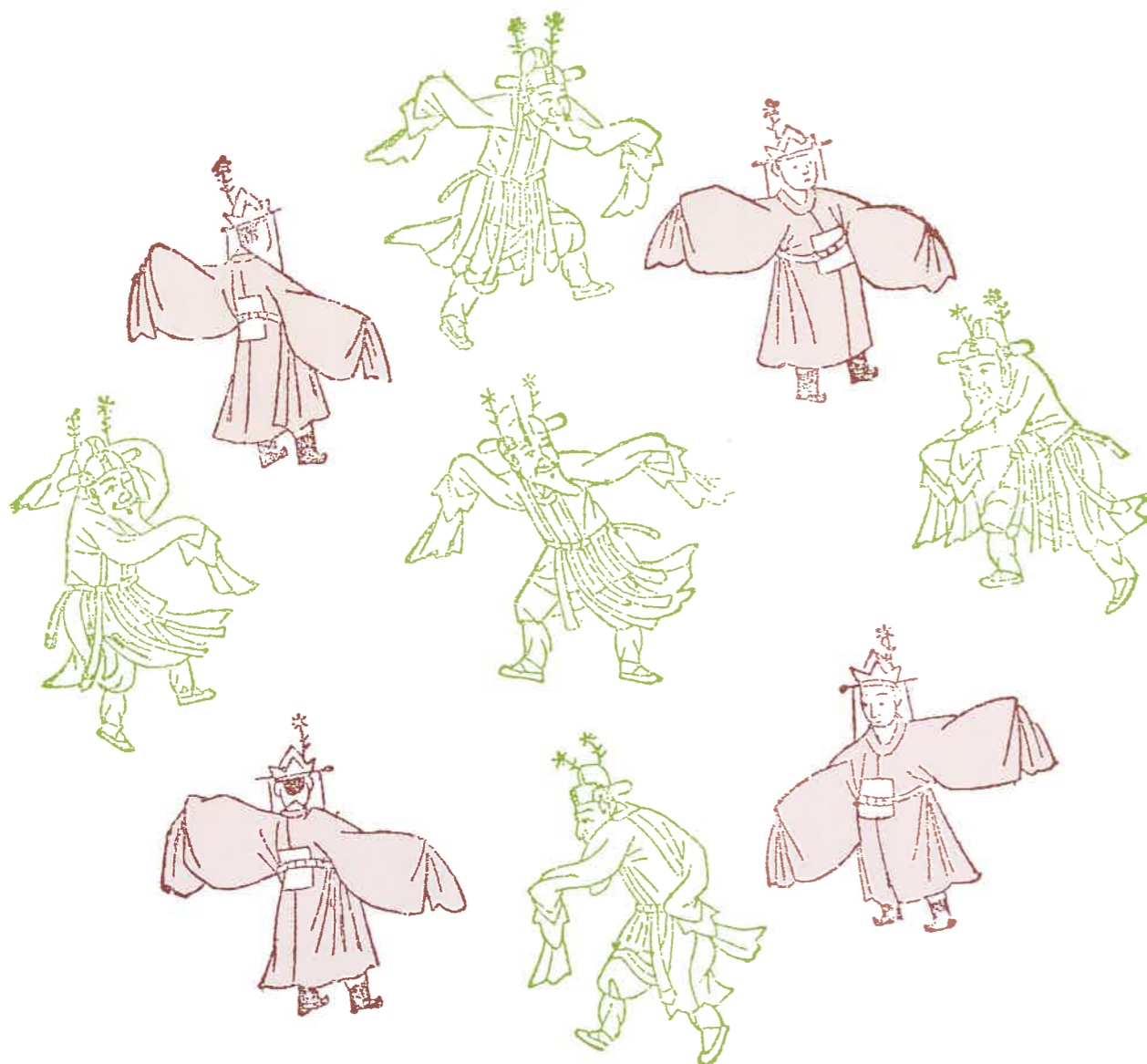


「永い間見失っていた祖先や同胞の姿を見出し、  
その環境の源を遡る時、吾等は吾等自身の行手に  
目覚める」。現代社会を再考する一助となる文献集。

# 日本民俗選集

第三回全6巻 神事・芸能篇

小川直之 編・解説



クレス出版

## 日本民俗選集 第三回全6巻 神事・芸能篇

小川 直之 編・解説

- 第15巻 官国幣社特殊神事調 一～三 (神祇院編) 定価18,000円(税別) ISBN978-4-87733-531-1
- 第16巻 官国幣社特殊神事調 四・五 (神祇院編)、芸術としての 神楽の研究 (小寺融吉著) 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-532-8
- 第17巻 日本仮面史 (野間清六著)、原始民俗仮面考 (南江二郎著)、祭礼と風俗 (中山太郎著) 定価15,000円(税別) ISBN978-4-87733-533-5
- 第18巻 日本舞踏史 (岩崎小弥太著)、日本音楽の研究 (田辺尚雄著)、日本民俗藝術大観 (民俗藝術の会著) 定価17,000円(税別) ISBN978-4-87733-534-2
- 第19巻 日本郷土玩具 東の部 (武井武雄著) 定価9,000円(税別) ISBN978-4-87733-535-9
- 第20巻 日本郷土玩具 西の部 (武井武雄著) 定価10,000円(税別) ISBN978-4-87733-536-6

A5判/上製クロス装 平成22年5月末日刊行  
揃定価82,000円(税別) ISBN978-4-87733-537-3(セット) C3339

## 日本民俗選集 第一回全7巻 小川 直之 編・解説

- 第1巻 日本民俗学論考 (中山太郎著)、史譚と民俗 (本山桂川著) 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-463-5
- 第2巻 民俗断篇 (西村真次著)、民俗と建築 (今和次郎著) 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-464-2
- 第3巻 島国の唄と踊 (田辺尚雄著)、絵文字及源始文字 (田崎仁義著) 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-465-9
- 第4巻 信仰と迷信 (富士川游著)、民俗怪異篇 (磯清著) 定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-466-6
- 第5巻 満洲・支那の習俗 (永尾龍造著)、東北の土俗 (日本放送協会東北支部編) 定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-467-3
- 第6巻 江戸情調 (笹川種郎著)、かくれさと雑考 (上林豊明著) 定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-468-0
- 第7巻 年中行事 (北野博美著) 定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-469-7

揃定価89,000円(税別) ISBN978-4-87733-470-3 C3339

## 日本民俗選集 第二回全7巻 小川 直之 編・解説

- 第8巻 山村民俗誌 (田中喜多見著)、漁村民俗誌 (桜田勝徳著)、海島民俗誌 (本山桂川著) 定価15,000円(税別) ISBN978-4-87733-508-3
- 第9巻 壱岐島民俗誌 (山口麻太郎著)、天草島民俗誌 (浜田隆一著) 定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-509-0
- 第10巻 五島民俗図誌 (久保清・橋浦泰雄共著) 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-510-6
- 第11巻 奥隅奇譚 (中道等著)、遠江積志村民俗誌 (中道朔爾著) 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-511-3
- 第12巻 農民俚譚 (佐々木善善著)、芸備今昔話 (及川儀右衛門著)、江戸の口碑と伝説 (佐藤隆三著) 定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-512-0
- 第13巻 南島情趣 (本山桂川著)、日本の祭礼 (本山桂川著) 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-513-7
- 第14巻 琉球百話 (島袋源一郎著)、八重山古謡 (宮良当壯解説・宮良長包採譜) 定価16,000円(税別) ISBN978-4-87733-514-4

揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-515-1(セット) C3339

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋  
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

●書店名

「日本民俗選集」の第三回として、ここに九編の書冊を選んで神事・芸能篇とした。全六巻の発刊にあたって、今回の選集に含めた書冊の研究史上の位置づけについて述べておく。

大正時代から昭和初期にかけての時代は、「民間」の文化や歴史が学術研究の俎上にのぼり、「郷土研究」などの名で具体的な研究が進み、日本文化研究への新たな視点がいくつも提示された時代だった。今回の選集のテーマとした神事・芸能もその一つで、各地に伝えられる在地芸能の研究とその体系化は、昭和二年七月発足の「民俗藝術の会」の活動によって大きく進んだ。この会には柳田國男、今和次郎、山崎樂堂、早川孝太郎、金田一京助、中山晋平、小澤愛園、永田衡吉、小寺融吉、さらに野口雨情、熊谷辰治郎、高野辰之、折口信夫などが参加し、同年十一月の第三回談話会では折口信夫が四時間にわたって「翁の成立」を話し、翌年から機関誌『民俗藝術』の発刊を決めている。

現在謂うところの「民俗芸能」へ、民俗研究者だけではなく、音楽研究者、劇作家、演出家、作詞家、作曲家など幅広い人たちが結集し、熱いまなざしを向けたのである。この会の発足に先立って大正十四年十月には日本青年館の開館記念に「郷土舞踊と民謡の会」が始まり、初回には川越の獅子舞、岩手県江刈町の牛追い唄・山唄など八つの芸能と唄が公演されている。また、昭和三年二月には東京日本橋の三越呉服店で、出雲大社巫女舞やアイヌ舞踊、琉球舞踊など一五〇点の「民俗藝術写真展覧会」が開催され、これらの写真のキャビネサイズプリントが販売されている。

日本の芸能への学問的な関心は、明治三十一年に小中村清矩が『歌舞音楽略史』を著すなど、明治中期から次第に高まり、明治後期には前田林外『日本民謡全集』（明治四十年）など「民謡」の収集が行われるようになる。そして、柳田國男も明治四十四年には「踊の今と昔」「越前萬歳のこと」を発表するが、民謡も含めた在地芸能の実地研究や東京での公演は前記の通り大正時代末からで、これ以後、農山漁村に伝わる芸能や民謡の研究が急速に進む。この研究を牽引した折口信夫、高野辰之、小寺融吉、早川孝太郎の著作は全集刊行や復刻が進んでいるが、これ以外にも注目すべき書冊がいくつもある。本選集に含めた書冊はそうしたもので、大正時代末に日本の芸能や音楽の総論を試みた岩橋小弥太『日本舞踏史』や田辺尚雄『日本音楽の研究』、民俗藝術の会が企画した「民俗藝術叢書」三冊、秋田県角館・飾山囃子の記録を行った『日本民俗藝術大観』第一輯があげられる。

さらに大正時代末・昭和初期には在地芸能とともに、郷土玩具への関心も高まっており、その代表的書冊である武井武雄『日本郷土玩具』を本選集に入れ、「民俗藝術叢書」の南江二郎『原始民俗仮面考』との関連で、野間清六『日本仮面史』を加えた。また、民俗藝術研究には早くから各地大社の神事が視野に入っており、芸能と神事は密接な関係があるとされてきた。この観点から、特色ある神事や芸能が列記され、現在も資料的な価値が高い昭和十六年刊の『官幣幣社特殊神事調』一―五を収めた。これは内務省外局の神祇院が、神社局による大正十三年度の調査報告を中心に、昭和三年度、昭和十六年度調査資料を内部資料としてまとめたものである。

第17巻 『日本仮面史』

古鳥蘇、新鳥蘇

これも兩樂とも四人或は六人で舞ふもので、古鳥蘇は武官の冠をいたゞき太刀を佩いて武官姿で舞ふが、新鳥蘇の方は大きな帽子を冠り拂子を持つて舞ふ。共に昔は假面を用ひたが現在は新鳥蘇の面しか残つてゐない。大槻如電氏は鳥蘇の語は諸書に何等解説してゐないが地名の鳥蘇利から來た言葉で鳥と鳥と誤つたのであらうと云つてゐる。古鳥蘇、新鳥蘇は高麗樂の新樂であるので、渤海樂に擬するのには都合のよい説ではあるが、寶龜十一年の西大寺資財帳には止湮蘇と記されてゐるので、鳥蘇の鳥の字を鳥の誤りと見て鳥蘇利に關係づけるのは如何かと思はれる。



新鳥蘇面 法隆寺藏

新鳥蘇面の遺品は手向山神社にあるのが最も古く、同社に傳へる長久三年在銘の地久面と作風が近いので、この面の作成も大體その頃と思はれる。次は法隆寺にあるものでこれは五面も残つてゐる。確證はないが平安時代

第19巻 『日本郷土玩具 東の部』

青森縣



青森縣 (陸奥)

津輕の奇習ねぶた祭の萬燈から出て子供の世界に誕生した燈玩は、あながち金魚提灯と限られた譯でなく、桃太郎その他の人形に象つて複雑に凝つた燈籠の類もあるが、結局すつきりと垢抜けがして、巧まぬうま味を出してゐる點で斷然金魚提灯のよさに止めを刺すのであつて、ねぶたの景物としてはこれ一個を以て代表としてまづ差つかへない。小ぢんまりとまとめあげた全體の量感と謂ひ、均整のとれた線と謂ひ、全く申分のない可愛いもの、東北流に言へばメンコイ事限りなし、全國でも代表的な燈玩である。北國の闇の色を背景として、灯のともつた赤い魚がその中を美しく游弋する情趣は、夏の子供の生活に與へるよい夢として蓋し上乗のものであらう。

日本民俗選集 第三回全6巻

第15巻

官国幣社特殊神事調 一―三  
神祇院編／昭和16年／神祇院  
【内容】官国幣社より神社局長宛の大正十三年度調査報告を主として、昭和三年度、十六年度を補う。奥羽地方、関東地方、中部地方、近畿地方

第16巻

官国幣社特殊神事調 四・五  
神祇院編／昭和16年／神祇院  
【内容】官国幣社より神社局長宛の大正十三年度調査報告を主として、昭和三年度、十六年度を補う。中国地方、四国地方、九州地方  
芸術としての 神楽の研究  
小寺融吉著／昭和4年／地平社書房  
【内容】太々神楽講、七十五座の神楽、神楽殿、舞方、囃子方、後見、装束、仮面と冠りもの、とりもの、神楽歌、神楽の曲名、囃子の手、舞の手、参考資料、研究のしほり

第17巻

日本仮面史  
野間清六著／昭和18年／藝文書院  
【内容】伎楽面（沿革、内容、種類、遺品の分布、技法、表情）、舞楽面（沿革とその内容、種類、技法、遺品の分布、行道面（沿革、種類とその遺品、表現と技巧）、能面及び狂言面（沿革、内容、翁とその仮面、能面の種類・表現と技巧、狂言面の種類・表現と技巧、能面及び狂言面の作者・遺品）  
原始民俗仮面考  
南江二郎著／昭和4年／地平社書房  
【内容】原始民俗仮面概論（序説・原始民俗仮面とは何か、民間伝承に現はれたる信仰、仮面の起源及び使用の意義、各種原始民俗仮面考（狩猟、トーテム、妖魔、医療、追悼、頭蓋、靈的、戦争、入会、雨乞、謝肉祭、其他）  
祭礼と風俗  
中山太郎著／昭和4年／地平社書房  
【内容】祭礼の語原的考察、祭の初見と土俗学的研究、祭礼に現はれたる三つの系統、祭礼の呪術的要素、祭具に現はれたる信仰の推移、祭礼の倫理化と其淘汰、祭礼の融通性が生んだ情調、祭礼の都會化から民衆化へ、祭礼に現はれたる国民性の諸相、生活価値の表現としての祭礼、祭式舞踊に関する瞥見、祭礼を利用した社会的制裁

第18巻

日本舞踏史  
岩崎小弥太著／大正11年／国史講習會  
【内容】東遊、五節、久米舞と吉志舞、田舞、囃歌と歌垣、踏歌、田楽、松囃、風流  
日本音楽の研究  
田辺尚雄著／大正15年／京文社  
【内容】日本民族の原始的音楽、三韓音楽との交渉、支那及印度音楽の輸入、内外楽の融和、新国民音楽の建設、国民楽の爛熟期、日本の楽譜  
日本民俗藝術大観 第一輯  
民俗藝術の会著／昭和7年／郷土研究社  
【内容】秋田県角館町神明社例祭の遺物「飾山囃子」記録 飾山囃子大要（北野博美）、忘れ物をした飾山囃子（竹内芳太郎）、民謡の楽譜について（兼常清佐）、屋台の踊としての「二本竹」その他（小寺融吉）、「二本竹」踊りの譜解説（竹内芳太郎、岡師嘉彦、小田内通久）、舞台化の記録（小寺融吉）

第19巻

日本郷土玩具 東の部  
武井武雄著／昭和5年／地平社書房  
【内容】北海道、東北、関東、信越、東海、北陸

第20巻

日本郷土玩具 西の部  
武井武雄著／昭和5年／地平社書房  
【内容】近畿、中国、四国、九州、沖縄、台湾、朝鮮

